

# 日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18年11月1日～平成 19年10月31日

テーマ： 大楠地域の環境調査

氏名： 木下 俊明 所属： 横須賀市立大楠中学校

## 1. 課題の主旨

本校が所在する大楠地域は、横須賀市の中でも自然が多く残っている。そのため生徒自身も他の地区と比較して、子供のときから自然と触れ合う生活をしてきている。また漁港を抱える土地柄でもあり、自然に触れ合うことが当然と捉えて育ててきている。このような地域であるものの、近年大規模な開発が進められそれまで慣れ親しんでいた地域の風景が一変する状況に出会うことが多くなった。

開発自体がすべて良くないという認識は、正しくないと感じる。しかし自分たちの地域の自然を知り、守っていくことが大切であることを学ばせるために、今回の取り組みを実施した。

## 2. 準備

内容は大きく2つとし、ホタルの飼育と環境調査とを実施する計画を立てた。特にホタルについては、校内での継続的な飼育を目指し、地域へ放流することを最終的な目的とした。また大楠地域の環境調査については、自分たちで植林するところも視野に入れ取り組んだ。

## 3. 指導方法

複数の学年にわたって、それぞれの中で実施するような体制をとった。

- (1) ホタルが育つ環境 飼育  
選択理科（2－3学年）で実施
- (2) 大楠地域の環境調査  
総合的な学習の時間（1学年）で実施

## 4. 実践内容

- (1)ホタルが育つ環境 飼育
  - ①ホタルが育つ環境の調べ学習  
インターネットなどを用いて、ホタルの生態、ホタルの育て方、各地でのホタル飼育の現状について調べ学習を実施し、お互いに発表を行った。

## ②ホタルを育てている方を迎えての勉強会

講師として以前からホタルを飼育している方を招いて、ホタルの勉強会を実施した。このときには、生き物を育てていく責任と、厳しさについてもお話いただいた。これにより生徒たちの中にも、生半可な気持ちで取り組むことではないことが理解されたようだった。



## ③ホタルの飼育の実践

ホタルの幼虫と餌となるカワニナを譲り受け、飼育を行った。ホタルの飼育については、生徒のみならず指導する教師側も初めてであったため、取り組みをうまく進めることが出来なかった。そのため、幼虫を譲り受けた時期がずれてしまい、研究期間中に成虫への羽化・産卵を飼育器内で確認することは出来なかった。現在、次のシーズンへ向けて準備を進めている。



## (2) 大楠地域の環境調査

### ①新グラウンド緑化作戦

本校のグラウンドが、隣接する山林の宅地開発に伴い拡張された。生徒にしてみれば、グラウンドが拡張されたというメリットを享受する一方で、隣接する山林が宅地へと変わっていくという矛盾を知る結果となった。そこで、そのグラウンドの周辺を自分たちの手で緑化することとした。1学年全体でアサガオ・コスモスなどを植え付け、育てていくこととした。



### ②大楠山の植生調査

以前は大楠山には地元の人々が薪を得るために継続的に手を入れていった山だが、現在は以前ほど人の手が入っていない。その大楠山の植生を調べながら、ドングリ拾いを行った。拾ってきたドングリは、腐葉土を混ぜた土とともに植え付け、来年度春に芽を出す予定である。そしてある程度成長した後に、学校に隣接する住宅地との境界付近に移植し、地域に緑を復活させる一助としていく予定である。

## 5. 成果・効果

### 【成果】

- ①生徒たちに自分たちで自然環境を守るという意識付けをすることが出来た。
- ②地域の自然保護・緑化に協力することが出来た。
- ③開発で失われたホタルの生息地を復活させるための繁殖センターの基礎を作ることが出来た。

## 6. 所 感

今回の取り組みでは年度にまたがった活動ということもあり、当初計画していた道路環境については活動を進めることができなかった。またホタルに関しては、選択授業の生徒数が非常に多くなってしまい、当初考えていたような少人数での実施形態がとれない問題もあった。結果としてスケジュールの大幅な変更が発生し、他団体との交流も実現することができなかった。

しかしながら生徒の中に、ホタルがすめる環境を自分たちの手で作っていこうという気持ちが高まってきたことは幸いである。また、目の前のグラウンドに自分たちが植えた植物が見えるということは、自分たちの地域であるという意識をよりいっそう深めることが出来たものとする。いずれにしても有意義な活動であった。

## 7. 今後の課題や発展性について

今回の取り組みは、この期間で終了するものではない。継続的に行う予定である。その際には、校内での体制が大切と考える。特にホタルに関しては2, 3年生の選択理科の授業で引き続き取り組む考えである。

## 8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

なし

以上